

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 青山 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

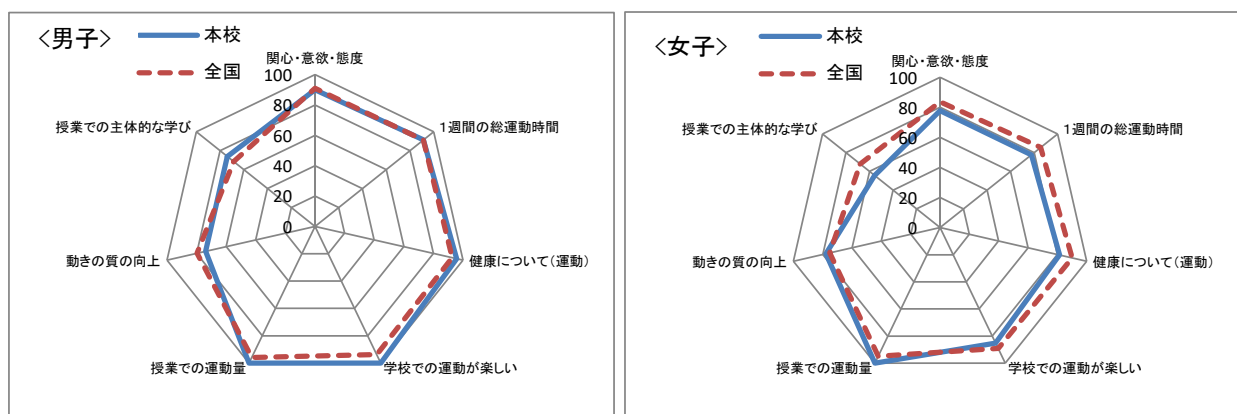
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・男女ともに「授業での運動量」は全国平均を上回っている。
- ・健康について、「運動が必要なもの」であることは理解できている。しかし、一方でコロナ禍のため、帰宅後の運動量が女子については6割、しなくなったを選んでいる。一方、動画などの視聴率が2時間以上の児童が8割を占めるため、適度な運動の必要性を保健体育や学活などを通して学んでいくことで課題解決を図ることができる。と考える。
- ・動きの質の向上について、日常生活での練習や動画などで調べて前向きに取り組んでいる児童が多いため、学習の中感染対策を講じたうえで「話し合う活動」や「認め合う活動」を工夫して行い活性化させることで課題解決を図ることができる。と考える。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・運動量の全体的な低下による体力低下を防ぐため、学習の導入に体力アッププログラムをこれからも積極的に活用していく。
- ・コロナ禍であっても工夫して児童間の関わり合いや教えあいを活発にすることで、学習意欲を高め、運動の楽しさを実感させ、体力向上につなげていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・睡眠時間の確保だけでなく、スマートフォンなどの正しい使い方、睡眠前の使用などについて指導するとともに、学校だよりなどで家庭に啓発する。
- ・授業づくりのアイデアを募り、継続して行える体力向上方法やジャンプアップ運動などを定着させていく。